

ペンギンレポート



発行所
山上みのる事務所
〒183-0056
府中市寿町3-9-18



【府中市政報告】Vol.15 平成26年12月30日

府中市議会議員 **山上みのる**

【ご意見ご要望をお寄せ下さい】 E-mail yamagami_229@nifty.com
TEL・FAX 042-366-3543 URL http://yamagami.a.la9.jp/

■プロフィール■
○1956年2月29日生まれ/寿町在住
○府中一小、府中一中、早稲田大学法学部卒業
○「そらとぶペンギン」を主宰
(心臓病の子どものための保育教室)
【主な経歴】
保護司/民生委員・児童委員/社会福祉協議会評議員/あけぼの福祉会理事/安立園評議員/府中市学校評価委員/少年補導員/府中四中学校評議員

大切なものを守りたい

いのちそだちまち

～明日につながる確かなみち～

一般質問は、府中市の「政策・事業の検証」とともに、「政策・事業の提案」を行うものと考えています。この4年間、「いのち」「そだち」「まち」の重点テーマに沿って一般質問を行いましたので、ご報告いたします。

社会でしっかり支える

いのち

『難病の子、障がいのある子、発達に遅れのある子の療育・相談・支援の充実を求めて』
『高齢者や障がいのある方が住み慣れた地域で、いつまでも安心して住み続けるために』

- 高齢者の住まいを考える(平成23年第3回)
- 自立支援法と児童福祉法の改正に伴う「児童発達支援センター」の創設について(平成24年第1回)
- 府中市における健康づくり(平成24年第2回)
- 市民の権利を守る2つの「センター」
- 事務事業点検を踏まえて - (平成24年第3回)
- 特別支援学級(固定級)の通学について(平成25年第1回)
- 在宅復帰を目指して(平成25年第3回)
- 「障害者差別解消法」で変わる(その1)
(平成25年第3回)
- 必ずやってくる災害に備えて
- 避難行動要支援者の避難支援 -
(平成25年第4回)
- 子どもたちを育むために
児童発達支援センター/あゆの子
(平成26年第2回)
- 高齢者が地域でくらし続けるために
(平成26年第3回)



すべては人づくりから始まる

そだち

『子育て環境の整備と0歳からの医療・福祉・教育の連携で、そだちを保障する』
『教育は感動と感化！よりよい教育環境、特別支援教育の充実を求めて』

- 府中版コミュニティ・スクールについて(平成23年第2回)
- 小・中学校における特別支援教育について(平成23年第2回)
- 指導者のあり方が問われる
- 中学校の武道必修化 - (平成24年第1回)
- 市民の権利を守る2つの「センター」
- 事務事業点検を踏まえて - (平成24年第3回)
- 「学校裁量予算」のすすめ(平成24年第4回)
- 「子育てサポートファイル」について(平成25年第1回)
- 特別支援学級(固定級)の通学について(平成25年第1回)
- 地域における子育て支援の充実(平成25年第2回)
- 小・中学校の連携(平成25年第2回)
- 子どもたちを育むために
プレイパーク/子育てサポートファイル
(平成26年第2回)
- これからの学校教育を考える
学校裁量予算/自然教室/ネットワーク事業
(平成26年第3回)



子どもたちに手渡す未来

まち

『災害に強いまちづくりを求めて』
『歴史ある景観を維持・保存・活用するために』
『誰もが支えあい協働するまち“コラボするまち府中”に向けて』

- 可能性が高まった直下型地震に備えて(平成23年第4回)
- 「エリア・マネジメント」のすすめ(平成25年第3回)
- 必ずやってくる災害に備えて
- 避難行動要支援者の避難支援 - (平成25年第4回)
- 直営か民営かそれとも
- 生涯学習センターのこれから - (平成26年第1回)
- 地域支援活動拠点としての「空き家活用」
(平成26年第1回)





介護を家族に任せるのではなく、社会全体で支え合うために導入された介護保険ですが、2000年の制度導入以降、試行錯誤を繰り返しながら、今日に至っています。また、**団塊の世代が75歳を迎える2025年以降の医療、介護分野の負担増加が見込まれ、対応を迫られています**。国の思惑はともあれ、府中市において、高齢者が住み慣れた地域で生活を続けられるように、支援・サービス提供の体制を整えなければなりません。

① 高齢者のすまい

Q 市内のサービス付き高齢者住宅の棟数、戸数とその中で特定施設の割合、有料老人ホームの割合は？

A ⇒ 7棟242戸で、特定施設に該当するものはなく、**すべてが有料老人ホームに該当する**。

Q 府中市におけるサービス付き高齢者住宅の現状と課題は？

A ⇒ 高齢者の住まいの確保が必要であるものの、サービス付き高齢者住宅を供給した場合、**他市から、介護や介護予防の必要な高齢者の転入が見込まれ、市の財政負担につながる**。

サービス付き高齢者住宅は、高齢者が地域でくらし続けるための重要な要素ですが、多くは有料老人ホームとして運営されているというのが実情です。費用も食事などのサービス費を含め月に20万円を超えます。「闇雲にサービス付き高齢者住宅が増えて、気がついたら、府中市の負担も増えていた」ということにならないよう、くれぐれもお願ひしたいと思います。



② 地域におけるリハビリテーション

平成25年第3回定例会において、老人保健施設の在宅復帰率の向上について言及しました。

Q 平成24年度には、府中市内の老人保健施設の在宅復帰率が平均で20.9%でしたが、その後の状況は？

A ⇒ 平成25年度実績では**市内4施設の平均は約37%と上昇している状況**。

Q 増えた要因をどのように分析していますか？

A ⇒ リハビリ以外の場でもトレーニングをした結果。また、平成24年度は病院への入院退所が多かった。



厚労省の有識者会議では、現在の居宅リハビリについて、単純な機能訓練を漫然と行っているケースが少なからずあり、自立支援などの大原則が十分に徹底されていないとの指摘があります。

Q 「地域リハビリテーション活動支援事業」が、今回の介護保険の改正で追加されましたが、府中市の考えは？

A ⇒ 理学療法士、作業療法士、言語聴覚士などのリハビリ専門職に、介護予防教室に関わってもらうほか、訪問、通所の各種予防サービスの日常生活動作の改善支援や、地域ケア会議やサービス担当者会議への**リハビリ専門職の派遣など、リハビリ専門職が効果的に機能する仕組みづくりを考える**。



高齢者だけでなく、障がい者も含め、地域でいつまでもくらし続けるためには、今後、地域におけるリハビリが大きな役割を担っていくことは、国の方針からも明らかです。そのような視点に立ち、より身近な「地域におけるリハビリ専門職の活用」を図っていただきますようお願いいたします。

③ 地域で支え合うしくみ

Q 「地区社協」の目的、内容について？

A ⇒ 身近な地域で住民相互の支えあいを目的として、生活課題を解決する住民組織の構築をめざす。

Q コーディネーターは、どのような方を想定？活動拠点は？

A ⇒ 精神保健福祉士、社会福祉士などの一定の相談援助・技術を持った方を想定。また、活動拠点は文化センター圏域11ヶ所、将来的には小学校区域22箇所を設置を予定している。

Q コーディネーターはボランティアですか？

A ⇒ 社会福祉協議会の専門職員の配置を予定している。

地区社協のコーディネーターとは別に、府中市でも地域福祉コーディネーターを検討しています。市民協働やコミュニティスクールなど…地域の中に、多くのコーディネーターが必要となりますが…



Q 西原町における「見守りの取組み」は、どのような状況？また、「高齢者見守りネットワーク」にも参考になるとおもいますが？

A ⇒ 西原町では、**20年ほど前に民生委員・元民生委員が中心となり、週1回、地域住民の趣味活動等を行っているが、役員の定期的な見守り活動、地域包括支援センターへの情報提供など、地域住民が主体的に地域を見守る仕組みであり、ひとつの望ましい形態**。当面は、全市的に「見守りネットワーク」の普及を継続し、各地域の実情に応じた活動につながるよう図りたい。

西原モデルを参考に、地域において孤独死をなくす取り組みも、また、空き家の活用についても、地区社協で取り組めるのではないかと考えています。今後の「地域包括ケアシステム」においては、地域の社会関係資本がより重要な要素となります。**地区社協は可能性も多くありますが、その分、課題も多くあります。今後、地区社協が地域における支え合いの核となることを期待します。**

